

# TMS 内のシステムで、H.323 エイリアス呼び出しを選択できません。これは、なぜですか。

## 内容

### 概要

[TMS 内のシステムで、H.323 エイリアス呼び出しを選択できません。これは、なぜですか。](#)

### 関連情報

## 概要

この記事は Cisco TelePresence Management Suite に関連しています。

**Q. TMSのシステムに、H.323エイリアスを呼び出す選択肢が与えられていません。これは、なぜですか。**

**A.**アリアス ( E.164番号、URIまたはH.323 ID ) にスケジュールされたH.323コールを発信するには、システム ( エンドポイントまたはMCU ) がIP帯域幅を持ち、H.323ゲートキーパーに2であることをTMSが認識する必要があります。これを確認するには：

1. IP帯域幅を確認します。[システム]>[ナビゲータ]に移動します。システムを選択します。[Setting] をクリックします。[通話の設定]ペインで、[IP帯域幅の最大値]が0より大きいことを確認します(設定がない場合は、必要な権限を持っている場合は、[設定の編集]をクリックして、帯域幅を入力し、[保存]をクリックします)。
2. [Gatekeeper Status:引き続き[設定]の[ネットワーク設定]ペインで、[ゲートキーパーの登録ステータス]が[登録済み]であることを確認します。( そうでない場合は、システムに付属の手順に従ってゲートキーパーにシステムを登録します )。

スケジュールされたコールのルーティングでは、TMSがゲートキーパーのネイバーチェックを実行して、コール中の番号が既知の管理対象システムに解決できることを確認します。TMSは、TMSデータベース内のリモートシステムのゲートキーパーを検索し、要求側システムのゲートキーパーアドレスと照合します。

- 同じ場合、システムは互換性があると見なされ、エイリアスダイヤリングが許可されます。
- これらが同じではなく、ゲートキーパーがTMSによって管理されている場合、TMSは各ゲートキーパーに定義されているネイバーをチェックし、2つのゲートキーパーが互いのネイバーとしてリストされている場合、エイリアスダイヤリングが許可されます。(この隣接ゲートキーパーのチェックを無効にするには、[管理ツール(Administrative Tools)]>[設定(Configuration)]>[会議の設定(Conference Settings)]に移動し、[高度な会議オプション(Advanced Conference Options)]セクションで[はい(Yes)]を選択します)。
- ゲートキーパーが直接ネイバーではなく、要求側システムと宛先システムのIPゾーンの両方にURIダイヤルドメインが定義されている場合、TMSはalias@URIdomain形式を使用してコールを許可します。
- ゲートキーパーが異なり、ネイバーではない場合、デフォルトでは、TMSはエイリアスを直

接ダイヤルできると想定できず、エイリアスによるダイヤルも許可しません。  
スケジューリングを使用してコールを試行する場合は、両方のシステムのTMSスケジューリング設定(設定)も考慮されます。(各コールプロトコルに対して、2つの「許可アクセス権」があります。1つは着信コール用、もう1つは発信コール用です)。システムごとに適切なコール方向/プロトコルの組み合わせに対して「許可する権限」が付与されていない場合、TMSはコールルートを提供しません。

## 関連情報

- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)